

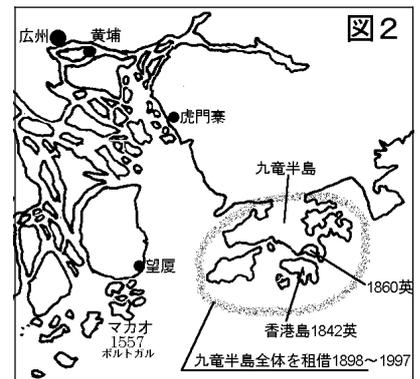
列強の中国侵略

「眠れる獅子」と恐れられてきた清朝もアヘン戦争に敗退し、日清戦争にも敗れ、列強の分割の対象となった。特に、19世紀末以降、列強の権益獲得はすさまじい勢いですすめられ、中国は事実上、要所を列強によって分割され、「半植民地化された」と表現される事態となった。それは具体的には、**鉄道敷設権**・**鉱山採掘権**の獲得、**租借地**や勢力範囲の設定などの利権獲得の形で行われた。

利権獲得競争激化のきっかけは、下関条約（1895）で日本が遼東半島を獲得すると、ロシアがフランスと【1: 】を誘って日本に圧力を行使し、遼東半島を清朝に返還（但し有償）させた三国干渉(1895)であることは明瞭。

- 1) 主な鉄道敷設権、租借地の獲得（代表的なものだけ紹介）
- 1896年 ロシアは三国干渉による遼東半島返還の代償として
 - ①【2: 】（本線）※1 の敷設権を得る。
満州里～綏芬河 すいふんが 間
 - 1898年 ドイツは、宣教師殺害事件を口実に
 - ②【3: 】こうしゅうわん を租借。
ロシアは③遼東半島南部の【4: ・ 】を租借
三国干渉で清に返還させた領土の一部
 - 1899年 イギリスは④威海衛、⑤【5: 】を租借
ロシアは更に⑥東清鉄道(支線)の敷設権を得る。ハルビン～旅順間
フランスは⑦【6: 】を租借 広州とは離れている
既にフィリピンを得たアメリカは、国務長官【7: 】の名で、【8: 】を発し、中国に関する門戸開放、**機会均等**、**領土保全**から成る「進出の3原則」を提唱。なお、「領土保全」は1900年に付加した。これによって列強の中国分割の勢いはややゆるんだとされる。

※1 東清鉄道を「満州鉄道」と書いてはいけない。No.166で詳述。
イギリスが九竜半島地方でしたことは No.154参照。



2) 列強はそれぞれ勢力圏を画定し、その範囲内を他国に租借させたり、割譲したりしないことを清朝に認めさせた。列強の勢力圏は、およそ次の通りである。



- ロシア 東三省とうさんしょう(奉天・吉林・黒竜江 ※2)とモンゴル
- ドイツ 【9: 】半島
- イギリス 【10: 】流域
- 日本 福建省 台湾は1895年領有、朝鮮は1910年に併合
- フランス 広東、広西、雲南

※2 東三省とは現在の遼寧省・吉林省・黒竜江省に相当する地方だが清朝期とはわずかに範囲が異なる。現代では「東北三省」と言う。

変法運動

《確認》 咸豊帝 位1850-61 かんぼうてい…太平天国の乱1851-64、アロー戦争1856-60 の時期の皇帝（親政）
 同治帝 位1861-75 どうちてい …咸豊帝の子、実権は母親の**西太后**1835-1908咸豊帝の側室にあり。
 光緒帝 位1875-1908 こうしよてい/こうちよてい …母は西太后の妹。実権は一時期を除き**西太后**。

日清戦争に敗北、19世紀末以降の外国勢力の侵略激化に直面し、清朝政府内部でも改革の動きが始まった！

- 1) 保守派は、李鴻章に敗戦と不利な講和（下関条約）の責任があるとして厳しく批判した。
- 2) 基本的には儒学者（公羊学 ※3）であるが洋学にも通じる【11: 】1858-1927、その弟子の【12: 】1873-1929らは、**1895年～98年**、結社を作り雑誌を刊行するなど新しいタイプの政治運動を展開した。彼らは明治維新を模範とし、議会政治を基礎とする**立憲君主制**の樹立をめざした。この運動を【13: 】ないしは**変法自強**と呼ぶ。康有為は、1888年からしばしば光緒帝に上書して改革論を述べた。
 ※3 公羊学とは考証学に飽きたらず経世実用を主張、政治改革を求める清末の（儒学の）学派。康有為は『春秋公羊伝』に基づき、孔子は守旧に留まらず新しい政治体制を作ったという独自の儒教解釈を持っていた。 2014慶應義塾(法)
- 3) 光緒帝 位1874-1908 は4歳で即位、1887年まで**西太后**が摂政（光緒帝は甥にあたる）だった。17歳で親政を開始すると、**1898年6月～9月**、光緒帝は前掲2)を取り上げ、康有為、梁啓超、譚嗣同 たんしどうらを登用して改革を行わせた。国民教育の普及、国家予算の公表、満州人の特権の廃止などで、立憲君主制も指向されていた。これが、【14: 】である。
- 4) 西太后ら保守派は洋式陸軍の司令官【15: 】1859-1916 と結んでクーデターを起こし光緒帝を幽閉し、西太后の政権

が復活した。こうして戊戌の変法はわずか3ヶ月（100日）で挫折し、元の排外主義に戻り、ほぼ実効性は無かった。この反動クーデタを【16: 康有為、梁啓超は日本に亡命した。処刑された者もいる。梁啓超は、1903年にアメリカ大陸を訪問している。

康有為らは光緒帝の支持さえ得られれば中国社会を変革しようとする傾向があった。

義和団事件と8か国連合軍

キリスト教の布教が公認され（北京条約）、布教が活発化すると、各地で中国民衆の生活習慣や感情と摩擦を生じ、仇教運動（反キリスト教の運動）が起こった。特に華北では欧米列強の進出は強引で、反感をかっていた。

1) 厳密には「山東教案」と呼ばれる事件

山東事件（1914）との混同注意

宣教師殺害事件（1897）を口実にドイツが急速に進出した山東半島では、白蓮教系の宗教結社が郷村きょうそんの自警団と結びつき、【17: 山東事件（1914）】と称して、1898年ないしは99年、山東省へのドイツの進出とキリスト教の布教に反対して蜂起した。鉄道や電信の破壊、教会の焼き討ちを行い、北京・天津に入って外国人を攻撃する排外運動を展開し支持を広めた。そのスローガンは【18: 除教安民】。「排外主義が前面に出ているが反帝国主義の運動と考えてよい。しかし、これは「義和団事件」とは呼ばない。これが一層激化したものが2)の義和団事件である。

2) 【19: 義和団戦争】と呼ばれる事件（1900～1901）

1900年6月 「扶清滅洋」を唱えて20万人の勢力に成長した義和団は、北京に突入した。

西太后ら保守派で固められた清朝政府は義和団のこの行動を支持し、列強に宣戦布告した。抗戦を命じ、義和団と協力して外国公使館地区を包囲した。義和団は、外国公使館を襲撃、日独の外交官を殺害した。《出題例あり》

1900年8月 8か国連合軍、北京を占領、鎮圧。西太后は西安に逃れる

日本、ロシア、英、米、独、仏、伊、オーストリア ……鎮圧軍の主力は日本とロシアである。

このような列強を網羅する多国籍軍が編成されたのは史上初である。

1901年9月 【20: 辛丑（しんちゅう）和約】調印 清朝と11か国の条約

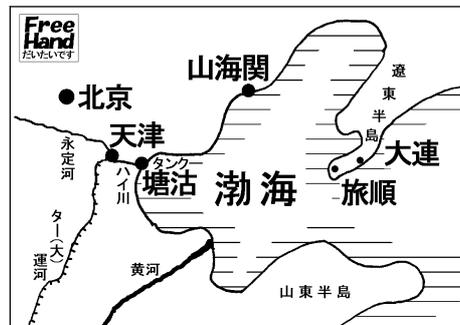
清朝と上記8か国+ベルギー・オランダ・スペイン

3) 北京議定書（1901）の内容

中国の半植民地化が決定的となった外交文書である。

- ①賠償金4億5千万両（テール）の支払い。関税、塩税を担保に39カ年賦
- ②北京の公使館所在区域への外国軍の駐兵を認める=北京駐兵権を認める。
あわせて、天津・塘沽タンク、山海関にいたる地域の自由交通確保のため協定地域を占領することも認めた。
- ③責任者の処罰 その他省略

4) 義和団事件収束後も【21: 義和団事件】は中国東北部から撤兵せず、さらに朝鮮への圧力を強めた。イギリスは警戒心を強め、日本国内ではロシア撃つべしの世論が高まり、一部のメディアは「臥薪嘗胆」の故事まで持ち出した。



光緒新政

1) 北京議定書（1901）で半植民地化が決定的となった状況で、西太后は清朝滅亡の危機を感じ、戊戌の政変で自ら否定したのとほぼ同じ改革を、今度は自分から行わざるをえなくなった。

清朝政府は張之洞などの有力官僚に命じて、立憲君主制国家に向けての改革を行った。これを【22: 光緒新政】ないしは清末新政と言う。注意：新政であって親政ではない。

「光緒新政」と表記されるが、光緒帝は幽閉されたままであり、西太后の指導の下に行われた。単に「光緒帝の代に行われた新政」という意味である。光緒帝がイニシアティブをとった戊戌の変法と混同しやすい。

2) 新政の具体的内容

- (a) 袁世凱に近代的軍隊を編成させた。これを【23: 袁世凱の軍隊】と呼ぶ。その創設は、厳密には1895年に遡る。
- (b) 1905年【24: 立憲君主制】の廃止 袁世凱や張之洞らの意見で断行された。
- (c) 1908年【25: 大清憲法】を發布した。これは、明治憲法を模倣した憲法の大綱である。また、8年後（1916）の国会開設の公約を行った。
- (d) 1910年には、1913年の国会開設を約した。

3) 北京議定書（1901）で総理各国事務衙門※4は外務部と改称され、国際的信用の回復をはかった。

※4 衙門（がもん）とは役所のこと。この機関は1861年設置、さらにそれ以前は外交は「夷務」と言った。

2008 大学入試センター 1/19 本試験 世界史B 抜粋 改変

大問1の問8 ロシアの東方進出について述べた次の文a～cが、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、以下の①～⑥のうちから一つ選べ。 正解 ③

- a 清から旅順と大連を租借した。
- b 日本との間で、樺太・千島交換条約を結んだ。
- c 義和団事件に際し、清に軍隊を派遣した。

- ① a → b → c
- ② a → c → b
- ③ b → a → c
- ④ b → c → a
- ⑤ c → a → b
- ⑥ c → b → a